

高1 インターンシップガイダンス

本校では「社会に有為な女性を育成する」という教育の実践を、授業をはじめ多くの教育プログラムの中で行っています。総合学習の中でも「社会」を知り、自らの将来のビジョンを描いていく活動を積極的に行っています。

本日は5月17日（金）に高校1学年で行われたインターンシップについてのガイダンスを紹介いたします。

インターンシップは、弁護士事務所や税務会計事務所、美術館、薬局などのご協力を得て夏休み期間中に行います。中には、インターンに伺いたい企業に生徒自身が直接お願いをして受け入れて頂くケースもあり、生徒の自主性には目を見張るものがあります。

ガイダンスでは、担当教員からの「同じ機械で作った同じパンを売っているのに、A店は行列、Bは閑古鳥。なにが違うと思う？」という問いかけに、生徒からは「値段！」「従業員の態度」「場所」「お店の雰囲気」「営業時間」「広告の方法」……と思いつきの回答が出ました。それらをまとめた結果、B店がただ並べて売るだけの「作業」をしているのに対し、A店は何らかの工夫をしているのではないか、その工夫こそが仕事なのではないか、という結論が導かれました。

AI や機械と共存する社会の中で、人がすべきこと、人だけができることは何なのか。そうした仕事をするために必要な能力とは何なのか。そうした将来につながる展望を持ちながら、単なる職場見学に留まらず、社会人と同じように責任を持った行動を取れるようになってほしいと考えています。

